



オペラは、楽園を再生させるのに最も有効な装置です。オペラはその誕生から19世紀にいたるまで手をかえ品をかえ、飽くことなく楽園を描きつづけてきました。オペラは歌に生き、恋に生きる人々の織りなすドラマで、私たちの日常にないすべてがあり、心を癒し、生きるエネルギーを与えてくれます。

私だって逃れようのない恋に落ち、溢れる想いが自然に歌になって口から流れ出す、そんな経験をしてみたいと思って人々はオペラを観るのです。そして主人公たちと一緒に恋をし、歌に酔いしれ、心をゆさぶられ満足するのです。オペラの中のアリアは叙情的な独唱歌曲で、劇的な盛り上がりをもみせ、心を深く動かしてくれますので、以前から歌詞を知りたいと思っておりました。

新書館の相澤啓三編著『オペラ・アリア ベスト 101』でアリアの歌詞を調べてみますと、詩としても誠に素晴らしく、心に触れるものをご紹介します。

1. 『冷たい手を』

プッチーニ「ボエーム」より

1896年初演。三大オペラの一つで、若くて貧しい詩人ロドルフオが貧しいお針娘(はりこ)のミミに出会い、ひとつの愛が芽生えてゆくプロセスを舞台化した名場面です。

なんて冷たい手なんだろう。
暖めさせてくれませんか。
探したってどうなる？
暗がりで見つかりやしません。
でも運よく月夜ですし
ここに月が
すぐ射しこみますから。
待っていてね、ねえ君、
二つだけ言いたいのです、
ぼくが何者で、ぼくが何をして
どう生きているか。いい？
何者か？ 何者かっていうと
ぼくは詩人。

何してるかっていうと
物を書いています。
どう生きてるかっていうと
まさに生きています。
気楽な貧乏暮らしでも
詩と愛の賛歌なら
王侯並みの贅沢です。
夢で、幻想で
空(くう)に描いた城館(シャトー)で
百万長者の心なのですが、
時々ぼくの金庫から
宝石がごっそりやられます、
二人組にね、美しい両目という。
今もまた貴女(あなた)と一緒に入って
きて
ぼくのいつもの夢は
美しい夢の一切は
あっという間に消えてしまう。
でもとられたって少しも悲しくない。
置いて行ってくれたから、代わりを。
素敵な希望を。
もうぼくのことはお判りでしょう。

君が話して。さあ君が、君が誰なのか
お話して頂けますね。

2. 『お父さまにお願い』

プッチーニ「ジャンニ・スキッキ」より

1918年初演。スキッキの娘ラウレッタは大金持ちの青年と恋仲でお父さまに甘える。

ねえ私(わたし)の優しいお父様、
私好きなの、彼って素敵なの。
ポルタ・ロッサ通りまで
指輪を買いに行かせてほしいの。
ええそうよ、行かせてほしいの。
もし彼を愛しちゃいけないのなら
ポンテ・ヴェッキョの橋の上から
アルノ川に身投げしに行くかもしれな
くってよ。
私悩んでいるの、苦しんでいるの。
ねえ、ぼんと、死んじやいたいくらい
お父様、お願い、お願い。

3. 『あなたの声に私の心は開く』

サン・サーンス「サムソンとデリラ」より

1877年初演。デリラがサムソンの心を惹く、濃厚な誘いかけです。

あなたの声に私の心は開く、あたかも
花々が
曙(あけぼの)の接吻(くちづけ)に開くよう
に
けれど最愛の人よ、さらによく私の涙を乾
かすために
あなたの声をもっと聞かせてください
永久(とわ)にデリラの許(もと)に戻ると言
ってください。
繰り返してください、私の愛に
昔の誓(ちか)いを、私の好んだ誓いを
ああ私に答えて
陶酔を、陶酔を私に注(そそ)いでください
私の愛に答えて
陶酔を注いでください。

麦(むぎ)の穂先(ほさき)が軽(かる)いや
かなそよ風のもとに
波立ちさわぐように、
あきらめかけていた私の心はかくもな
つかしい
あなたの声にふるえおののく。
征矢(そや)が死を運ぶ速さより早く
恋する者があなたの腕に飛んで行きま
す。
ああ私の愛に答えて
陶酔を注いでください。
私の愛に答えて。

4. 『星は光りぬ』

プッチーニ「トスカ」より

1900年初演。男が泣き、男を泣かせる美しいアリアです。

星は輝き、地は香りたっていた。
菜園の戸をきしませて
砂に触れる足音……
馨(かぐわ)しく、彼女(あのひと)は入
ってきて
私(わたし)の腕の中に身を委(ゆだ)ね
お甘い接吻(くちづけ)、物憂(もの
う)げな愛撫(あま)を数多(あまた)、
私はおののきながら
ヴェールをとって美しい姿を現(あらわ)
す暇(いとま)を惜しみつつ……
この愛の夢は永久(とわ)に消えた。
時は過ぎた。
絶望の中に私は死ぬ。
今にしてこれ程までに愛(いと)しいもの
か生命(いのち)は。



オペラ歌手：佐藤しのぶ